



新たな総合計画の策定に係る 参考資料について

(令和6年(2024年)4月2日時点)

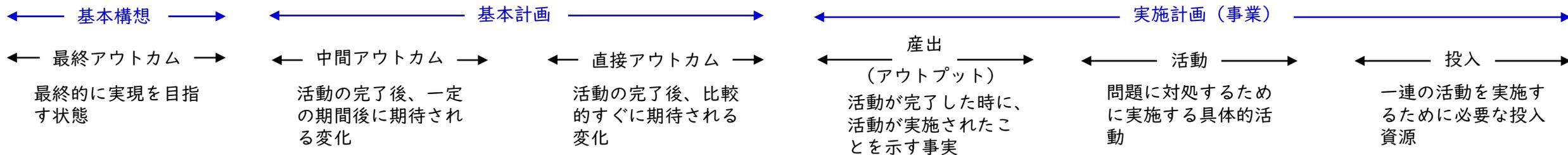
令和6年(2024年)4月2日
第2回鎌倉市総合計画審議会



1. 最終・中間・直接アウトカム
2. 第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画実施計画（改訂版）における財政推計（令和4年度作成分）
3. 人口推計（令和5年度実施分）の結果
4. 新たな総合計画策定に向けた市民意識調査結果
5. 新たな総合計画策定に向けた市民参画・職員参画



1. 最終・中間・直接アウトカム



引用文献の都合から、非公開



2. 第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画実施計画（改訂版）における財政推計

単位：百万円

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
歳入	市税	35,097	35,739	35,314	35,469
	国・県支出金	13,461	13,872	14,396	17,011
	市債	3,580	1,837	3,256	5,705
	財政調整基金繰入金※	3,850	3,079	3,700	3,833
	その他	11,172	12,236	12,513	12,597
	歳入合計	67,160	66,763	69,178	74,614
歳出	人件費	13,348	13,019	13,588	13,005
	扶助費	14,383	15,126	15,360	15,435
	公債費	4,071	4,047	4,157	4,226
	繰出金	9,998	9,844	9,750	9,888
	その他	25,360	24,727	26,324	32,061
	歳出合計	67,160	66,763	69,178	74,614

※地方自治体の単年度会計の原則の下、年度間の財源の不均衡を調整するための基金。

地方財政法第4条第4項では、経済変動による財源不足、災害対応・被災による減収補填、緊急を要する大規模事業など、長期的な財源育成に資する財産の取得、地方債の繰上償還に充てるものと規定されている。



3. 人口推計（令和5年度実施分）の結果（推計方法）

	自然増減(※1)		社会増減(※2)	
	死亡	出生	移動率(※3)	開発インパクト
基本推計	<ul style="list-style-type: none"> ・2045年までは国立社会保障・人口問題研究所(※4)が算出した仮定値(～2045年)を活用。 ・2045年以降は、国立社会保障・人口問題研究所が算出した仮定値の2035→2040と2040→2045年の変動分の平均値。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2045年までは国立社会保障・人口問題研究所が算出した仮定値(～2045年)を活用。 ・2050年以降は2045年の値。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年→2020年の移動率を将来固定 	<ul style="list-style-type: none"> (目標推計(※5)で活用)

※1「自然増減」：死亡数と出生数の差

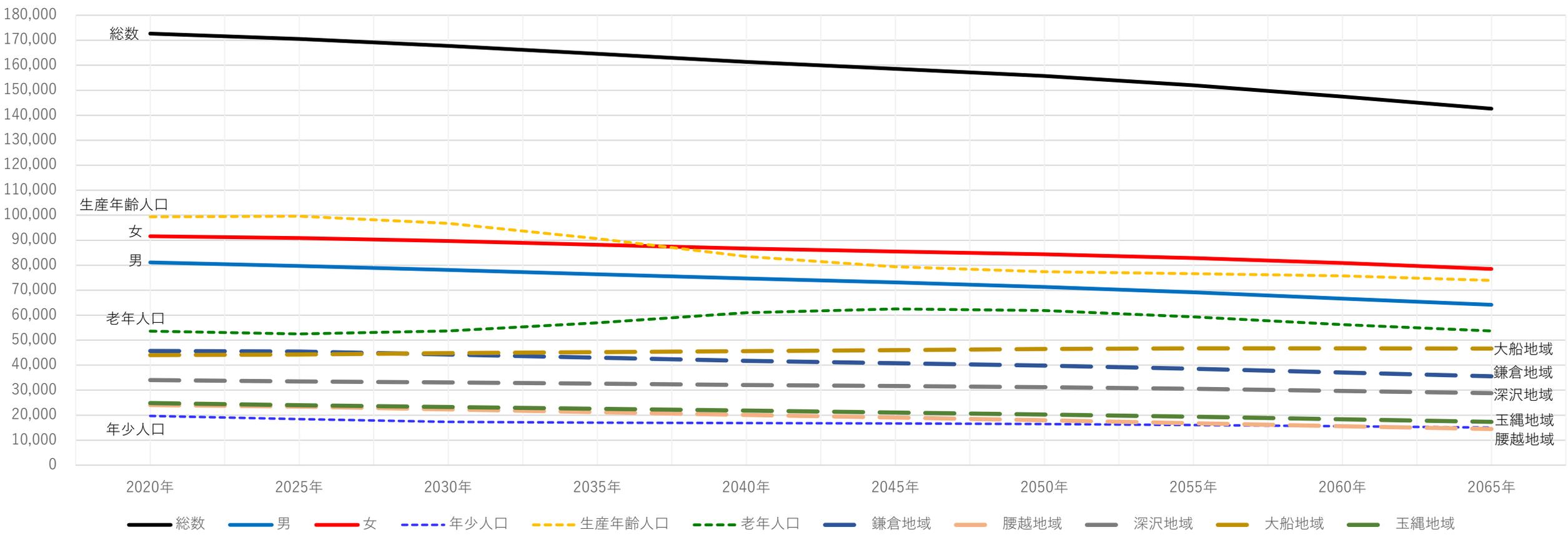
※2「社会増減」：住民の転入数と転出数の差

※3「移動率」：全人口に対する移動者数（転入者・転出者）の比率

※4「国立社会保障・人口問題研究所」：社会保障及び人口問題に関する調査及び研究を行うことを通じて、国民の福祉向上に貢献することを目的として設立された研究所（厚生省人口問題研究所と特殊法人社会保障研究所を平成8年に統合）

※5「目標推計」：一定の政策を打つことで、自然増の確保や社会増の活性化させることで達成させる目標人口に向けた推計

人口推計（基本推計）結果



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総数	172,710	170,544	167,744	164,592	161,352	158,573	155,684	152,009	147,500	142,676
男	81,097	79,706	78,091	76,403	74,696	73,113	71,331	69,124	66,619	64,166
女	91,613	90,838	89,653	88,189	86,656	85,460	84,353	82,885	80,881	78,510
年少人口	19,688	18,401	17,343	17,011	16,805	16,670	16,443	16,067	15,567	15,020
生産年齢人口	99,365	99,596	96,706	90,609	83,529	79,411	77,406	76,581	75,735	73,943
老年人口	53,657	52,547	53,695	56,972	61,018	62,492	61,835	59,361	56,198	53,713
鎌倉地域	45,700	45,431	44,267	42,998	41,768	40,796	39,792	38,556	37,083	35,514
腰越地域	24,046	23,393	22,314	21,208	20,107	19,051	17,956	16,801	15,597	14,431
深沢地域	34,051	33,476	33,064	32,590	32,075	31,632	31,183	30,544	29,704	28,788
大船地域	44,028	44,292	44,801	45,229	45,599	46,034	46,477	46,742	46,756	46,614
玉縄地域	24,885	23,952	23,298	22,567	21,803	21,060	20,276	19,366	18,360	17,329



4. 新たな総合計画策定に向けた市民意識調査結果（調査概要）

項目	内容
目的	市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-Being）」を調査し、鎌倉市の強み・弱みを把握する。
調査対象	令和5年7月13日時点で住民基本台帳に記載された満18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）
調査期間	令和5年8月4日～8月28日
調査方法	紙調査票及びWebアンケートの併用
有効回答数	1,015票／2,000票（回収率：50.75%）
調査項目	一般社団法人スマートシティインスティテュートが策定した「暮らしやすさと幸福度の指標（Liveable Well-Being City 指標）」に設定された設問等の51問 ① 回答者属性 ② 幸福度・満足度について ③ 地域の生活環境について ④ 地域の間人間関係について ⑤ 自身の状態や考えについて



4. 新たな総合計画策定に向けた市民意識調査結果（調査概要）

LWC指標は、主観指標と客観指標のデータを活用し、回答者の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-Being）」を指標で数値化、可視化したもの。

【客観指標】

調査対象地域の統計データから客観的に評価した指標

→主に自治体間比較で活用

【主観指標】

回答者の主観を評価した指標

→自治体間比較 & 鎌倉市の現状把握で活用



4. 新たな総合計画策定に向けた市民意識調査結果（調査項目）

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカatalog

指数を構成するKPIは次ページを参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

生活環境 (16)

医療・福祉

- 医療施設徒歩圏人口カバー率
- 医療施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 人口あたり国保医療費 (-)
- 人口あたり後期高齢者医療費 (-)
- 特定健康診断受診率
- 福祉施設徒歩圏人口カバー率
- 福祉施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 人口あたり児童福祉施設数
- 人口あたり障害者施設数
- 人口あたり認知症サポーター・メイト・サポーター数

買物・飲食

- 商業施設徒歩圏人口カバー率
- 商業施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 可住地面積あたりの飲食店数
- 人口あたり飲食店数

住宅環境

- 住宅あたり延べ面積
- 平均価格（住宅地） (-)
- 専用住宅1m²あたり家賃 (-)
- 一戸建の持ち家の割合

移動・交通

- 駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率
- 駅およびバス停徒歩圏人口密度 (-)
- 人口あたり小型車走行キロ (-)
- 通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合
- 職場までの平均通勤時間 (-)

遊び・娯楽

- 人口あたり娯楽業（映画館、劇場、スポーツ施設等）の事業所数

子育て

- 保育所まで1km未満の住宅割合
- 可住地面積あたり幼稚園数
- 施設あたり幼稚園児数 (-)
- 人口あたり待機児童数 (-)
- 歳出総額における教育費の構成比
- 合計特殊出生率

初等・中等教育

- 可住地面積あたり小学校数
- 可住地面積あたり中学校数
- 可住地面積あたり高等学校数
- 施設あたり小学生数 (-)
- 施設あたり中学生数 (-)
- 施設あたり高校生数 (-)

地域行政

- 人口あたり体育施設利用者数
- 人口あたり図書館借出者数
- 人口あたり博物館入館者数
- 地域財政指数

デジタル生活

- 自治体DX指数
- デジタル政策指数
- デジタル生活指数

公共空間

- 公園緑地徒歩圏人口カバー率
- 人口あたり公園の面積
- 歩道設置率
- ウォーカブル指数

都市景観

- 都市景観指数

自然景観

- 自然景観指数

自然の恵み

- 食料生産ポテンシャル
- 水供給ポテンシャル
- 木材供給ポテンシャル
- 炭素吸収量
- 蒸発散量
- 地下水涵養量
- 土壌流出防止量
- 窒素除去量
- リン酸除去量
- NO₂吸収量
- SO₂吸収量
- 洪水調整量
- 表層崩壊からの安全率
- 緑地へのアクセス度
- 水域へのアクセス度
- オートキャンプ場への立地

環境共生

- NO_x平均値 (-)
- PM_{2.5}年平均値 (-)
- ゴミのリサイクル率
- 人口あたり年間CO₂排出量 (-)
- 人口あたり再生エネルギー発電量
- 環境政策指数

自然災害

- 外水氾濫危険度
- 高潮危険度
- 土砂災害危険度
- 地震動危険度
- 津波危険度
- ハード対策
- 避難・救助
- 要配慮者支援
- 防災教育
- 防災まちづくり
- 情報・デジタル防災

事故・犯罪

- 人口あたり交通事故件数* (-)
- 人口あたり刑法犯認知件数* (-)
- 空家率 (-)

指数を構成するKPIはP14~15を参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出



4. 新たな総合計画策定に向けた市民意識調査結果（調査項目）

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカタログ

指数を構成するKPIは次ページを参照
 *各都道府県・市区町村HP等から取得
 (-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

地域の人間関係（2）

地域とのつながり

- 人口あたり自殺者数 (-)
- 拡大家族世帯割合
- 既婚者の割合
- 高齢単身世帯の割合 (-)
- 居住期間が20年以上の人口の割合
- 祭り開催数
- 自治会・町内会加入率*
- 人口あたり政治団体等の数
- 人口あたり宗教の事業所数
- 人口あたりNPOの数
- 人口あたり都市再生推進法人・UDCの数
- 関係人口創出活動指数

多様性と寛容性

- 議会における女性議員の割合
- 自治体の管理職職員における女性の割合
- 自治体職員における障害者の割合
- 人口あたり外国人人口
- 多様性政策指数

自分らしい生き方（6）

自己効力感

- 首長選挙投票率
- 市区町村議会選挙の投票率

健康状態

- 健康寿命（平均自立期間）（男性）
- 健康寿命（平均自立期間）（女性）

文化・芸術

- 芸術家・著述家等の割合
- 国宝・重要文化財（建造物）の数
- 日本遺産の数

教育機会の豊かさ

- 大卒・院卒者の割合
- 可住地面積あたり大学・短期大学の数
- 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数
- 人口あたり生涯学習講座数
- 人口あたり生涯学習講座受講者数
- 人口あたり青少年教育施設利用者数
- 人口あたり女性教育施設利用者数

雇用・所得

- 完全失業率 (-)
- 若年層完全失業率 (-)
- 正規雇用者比率
- 高齢者有業率
- 高卒者進路未定者率 (-)
- 市区町村内で従業している者の割合
- 創業比率
- 納税者あたり課税対象所得

事業創造

- クリエイティブ産業事業所の構成比
- 新規設立法人の割合
- 従業者数あたりコワーキングスペースの数
- 大学発ベンチャー企業数



4. 新たな総合計画策定に向けた市民意識調査結果（調査項目）

主観（ウェルビーイング）評価指標 ～ 全50問

地域における幸福度・生活満足度（4）

- 現在、あなたほどの程度幸せですか？
- 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。
- 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？
- 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う

生活環境（16）

医療・福祉（2）

- 医療機関が充実している（利便性）
- 介護・福祉施設のサービスが受けやすい

買物・飲食（2）

- 日常の買物に全く不便がない（利便性）
- 飲食を楽しめる場所が充実している

住宅環境（3）

- 自宅には、心地よい居場所がある（居住空間）
- 【逆】自宅の周辺では、騒音に悩まされている（秩序）
- 適度な費用で住居を確保できる

移動・交通（1）

- 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる

遊び・娯楽（1）

- 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある

子育て（2）

- 子育て支援・補助が手厚い
- 子どもたちがいきいきと暮らせる

初等・中等教育（2）

- 教育環境（小中高校）が整っている
- 通学しやすい場所に学校がある

地域行政（2）

- 地域の行政は、地域のことを真剣に考えている（地域行政）（社会関係資本）
- 公共施設は使い勝手良く便利である（利便性）

デジタル生活（2）

- 行政サービスのデジタル化が進んでいる
- 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい

公共空間（2）

- 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい（相性）
- まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある

都市景観（1）

- 自慢できる都市景観がある

自然景観（1）

- 自慢できる自然景観がある

自然の恵み（2）

- 身近に自然を感じることができる（自然）
- 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる（自然）

環境共生（1）

- リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである

自然災害（1）

- 暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている。

事故・犯罪（2）

- 防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい
- 歩道や信号が整備されていて安心である

地域の人間関係（2）

地域とのつながり（5）

- 私は同じ町内に住む人々を信頼している（社会関係資本）
- 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである（社会関係資本）
- 困ったときに相談できる人が身近にいる（つながり・感謝）（社会関係資本）
- 町内の人が困っていたら手助けする（向社会的行動）
- このまちに愛着を持っている（一体感）

多様性と寛容性（5）

- 町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある（異質性・多様性）
- 私は見知らぬ他者であっても信頼する（異質性・多様性）（過干渉・不寛容）
- 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる（一体感）（過干渉・不寛容）
- 女性が活躍しやすい
- 若者が活躍しやすい

自分らしい生き方（6）

自己効力感（1）

- 自分のことを好ましく感じる（一体感）

健康状態（2）

- 身体的に健康な状態である（健康）（地域の幸福）
- 精神的に健康な状態である（健康）（地域の幸福）

文化・芸術（2）

- 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい（ダイナミズム・誇り）
- 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（多世代共創）

教育機会の豊かさ（1）

- 学びたいことを学べる機会がある

雇用・所得（2）

- やりたい仕事を見つけやすい
- 適切な収入を得るための機会がある

事業創造（1）

- 新たなことに挑戦・成長するための機会がある（ダイナミズム・誇り）（モチベーション）



今回のアンケート調査項目



4. 新たな総合計画策定に向けた市民意識調査結果（調査項目）

例：「遊び・娯楽」

◎客観指標：人口あたり娯楽業（映画館、劇場、スポーツ施設等）の事業所数

→【算出根拠】総務省「経済センサス-活動調査」より「娯楽業」の事業所数
人口は2020年総務省「国勢調査」の値

○主観評価指標：楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある

→【算出根拠】アンケートでの「私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある」の問に対する「あてはまる」等の回答者割合

客観指標の結果と主観評価指標の結果を組み合わせることで、

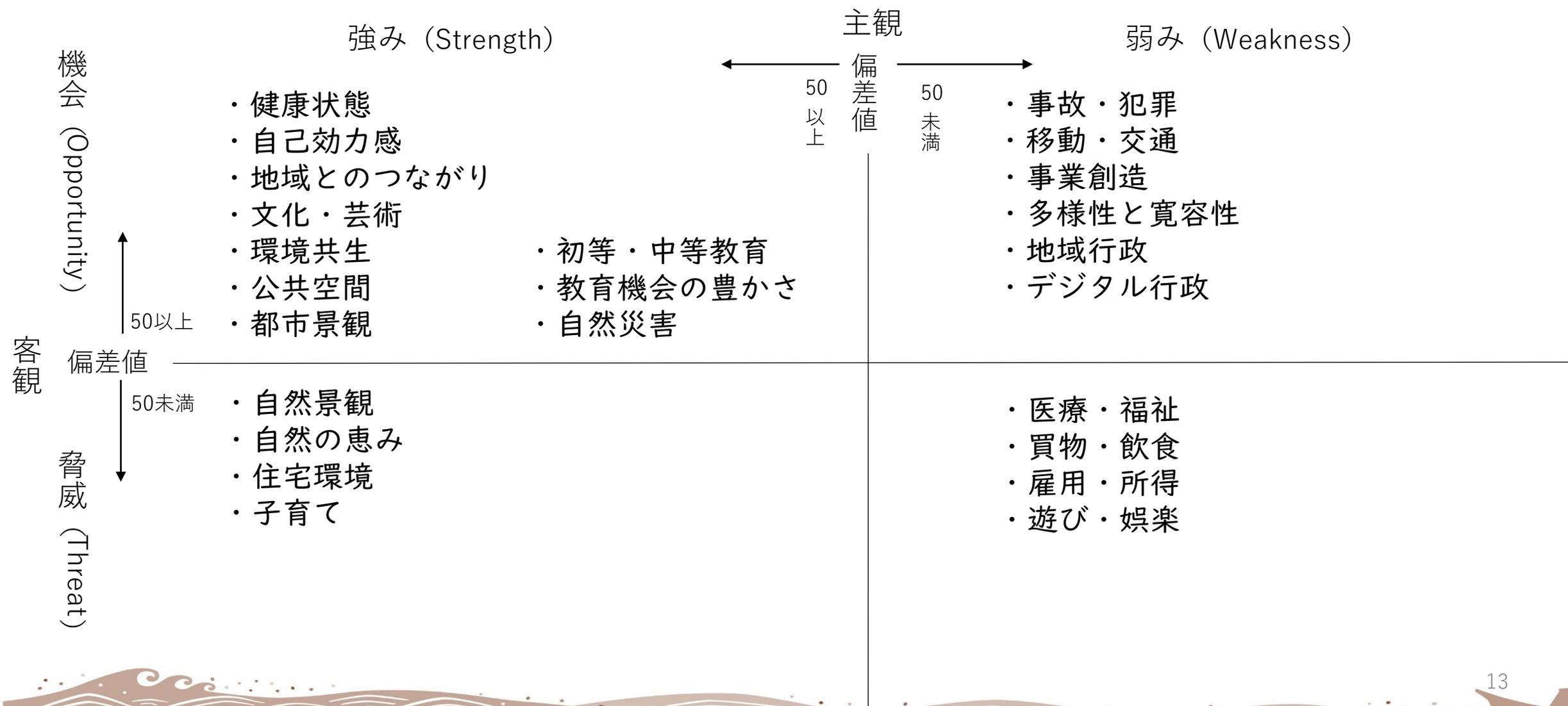
例えば、「市民は娯楽施設がないと思っても、実際には娯楽業の事業所がある」

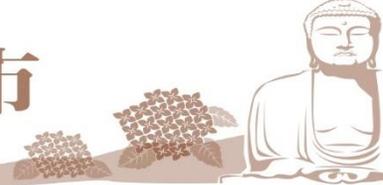
という結果となった場合には、

市民の娯楽施設に対する意識をどうあげていくかという施策を講じるか否かを検討していくことになる。



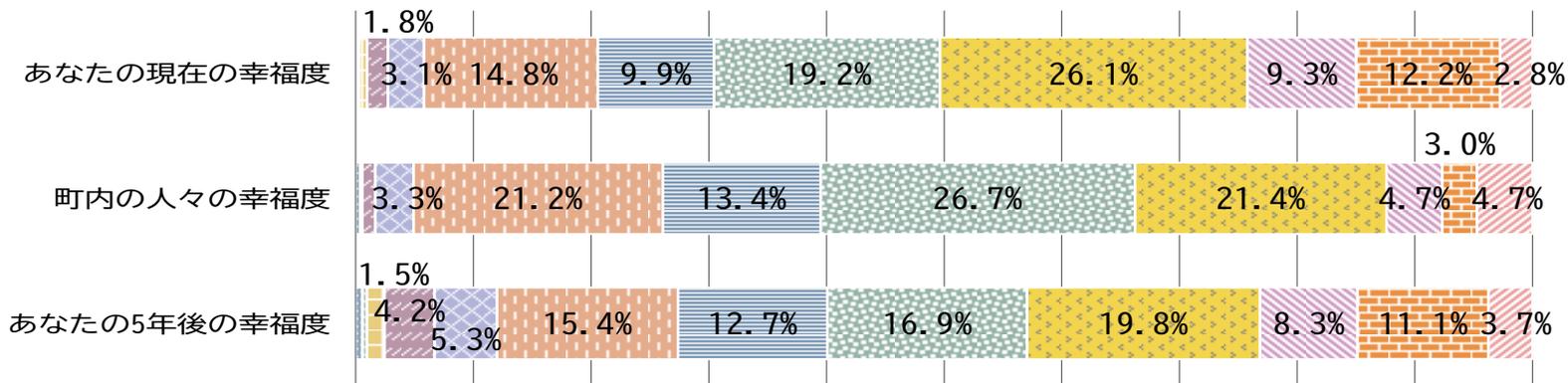
4. 新たな総合計画策定に向けた市民意識調査結果 (SWOT分析)



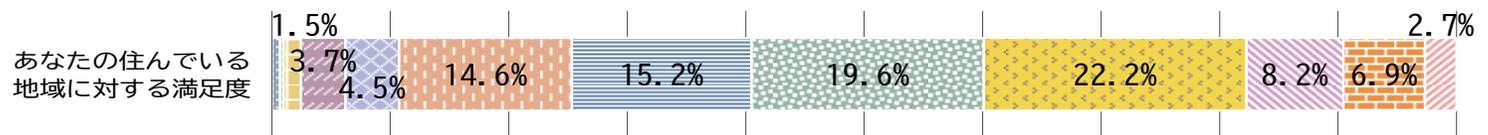


「地域における幸福度・生活満足度」の主観評価指標結果

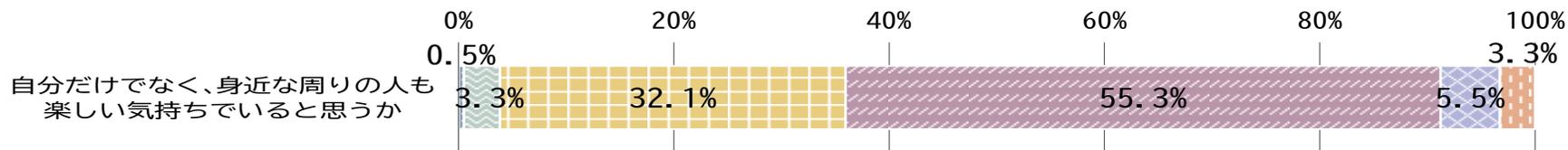
(n=1,015) 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



(n=1,015) 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

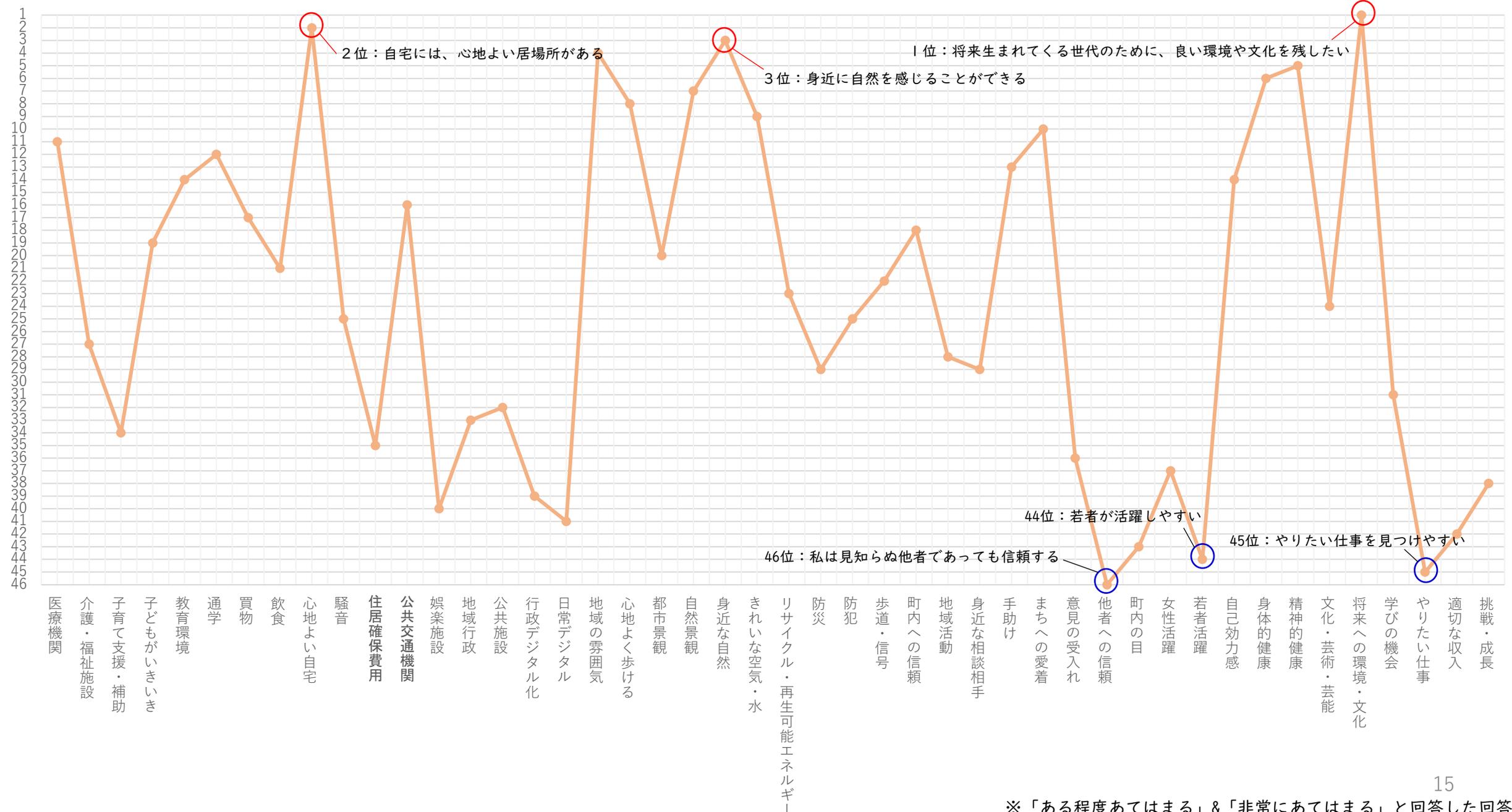


0pt 1pt 2pt 3pt 4pt 5pt 6pt 7pt 8pt 9pt 10pt 無回答



まったくあてはまらない あまりあてはまらない どちらともいえない
 ある程度あてはまる 非常にあてはまる 無回答

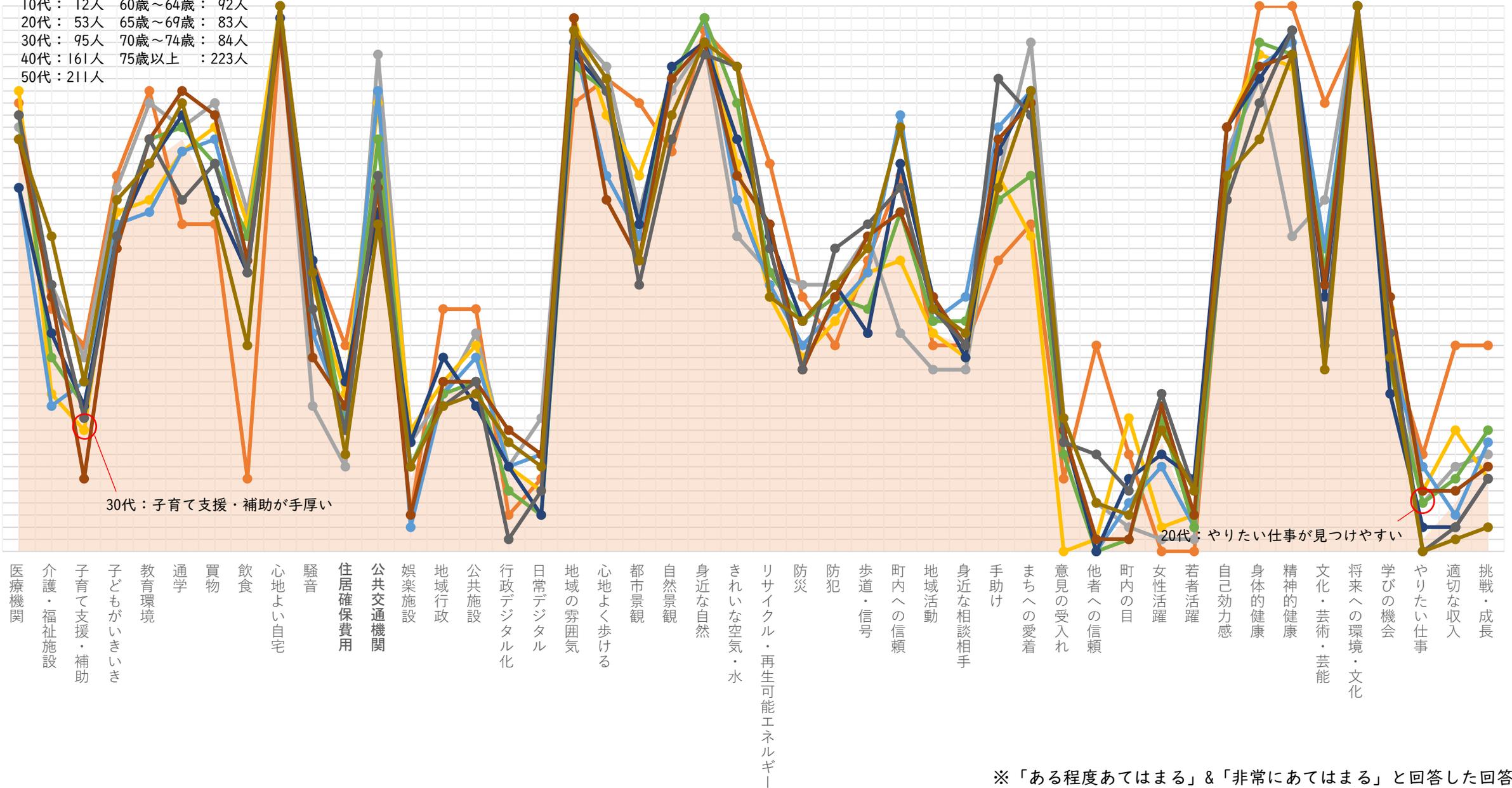
「生活環境」「地域の人間関係」「自分らしい生き方」の主観評価指標の満足度※相対比較（全体）



※「ある程度あてはまる」と「非常にあてはまる」と回答した回答者数

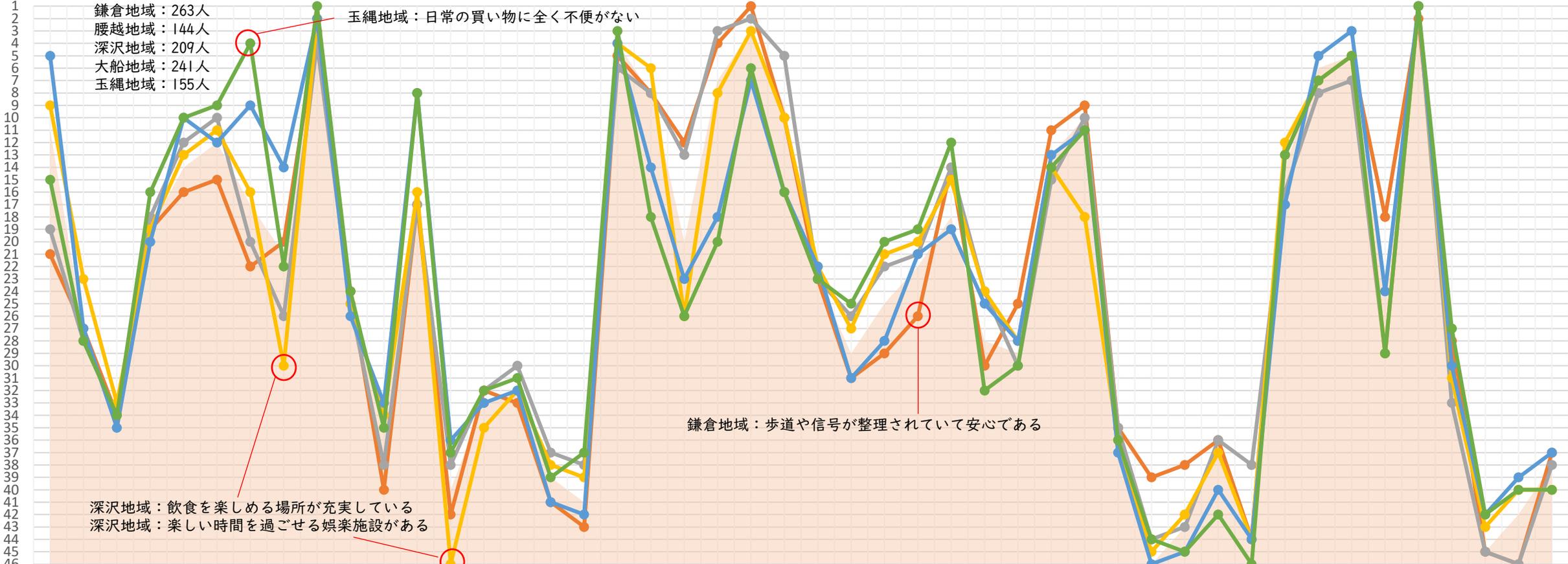
「生活環境」「地域の人間関係」「自分らしい生き方」の主観評価指標の満足度※相対比較（年齢別）

10代：12人 60歳～64歳：92人
 20代：53人 65歳～69歳：83人
 30代：95人 70歳～74歳：84人
 40代：161人 75歳以上：223人
 50代：211人



全体平均 10代 20代 30代 40代 50代 60-64 65-69 70-74 75歳以上

「生活環境」「地域の人間関係」「自分らしい生き方」の主観評価指標の満足度※相対比較（地域別）

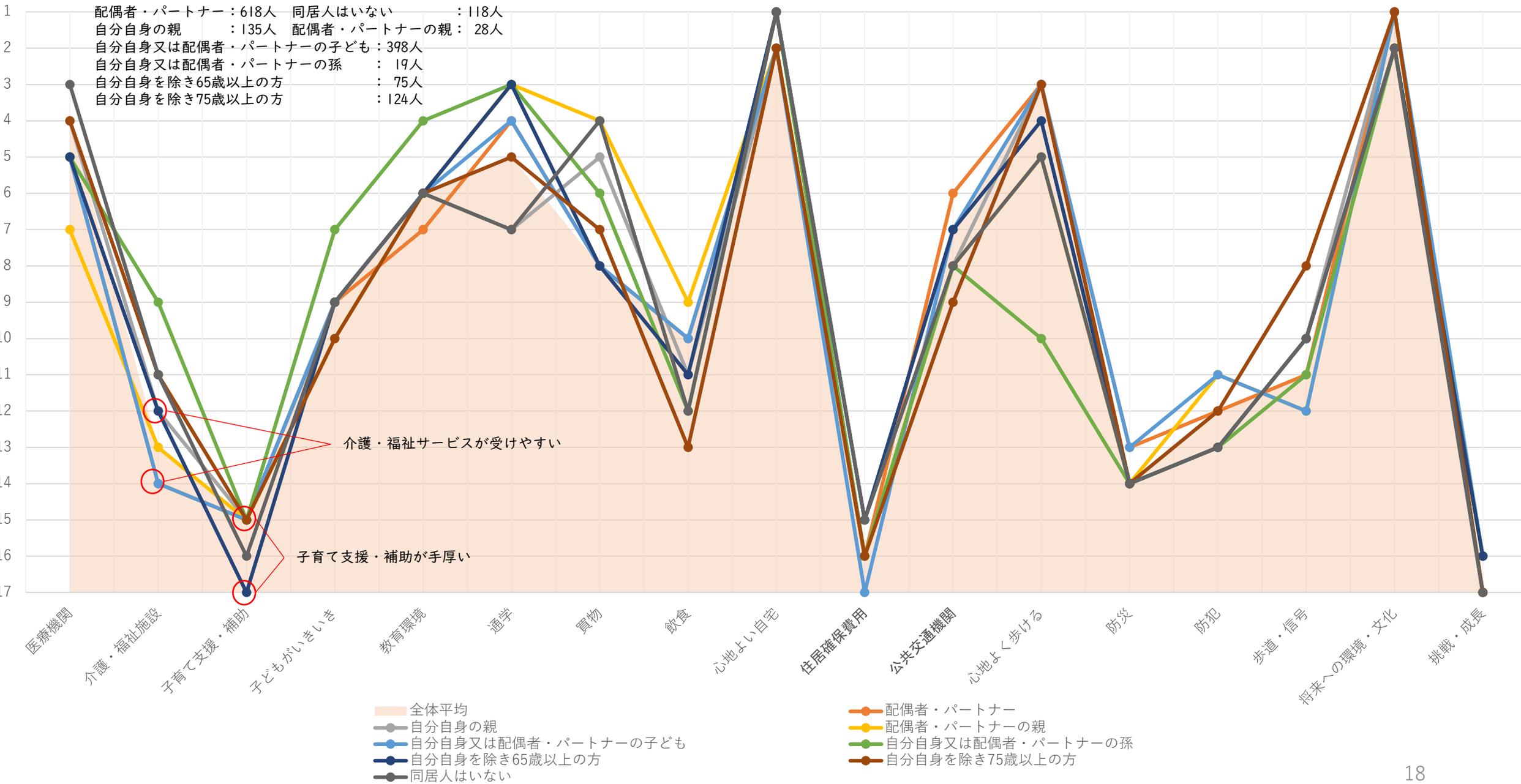


- 医療機関
- 介護・福祉施設
- 子育て支援・補助
- 子どもがいきいき
- 教育環境
- 通学
- 買物
- 飲食
- 心地よい自宅
- 騒音
- 住居確保費用
- 公共交通機関
- 娯楽施設
- 地域行政
- 公共施設
- 行政デジタル化
- 日常デジタル
- 地域の雰囲気
- 心地よく歩ける
- 都市景観
- 自然景観
- 身近な自然
- きれいな空気・水
- リサイクル・再生可能エネルギー
- 防災
- 防犯
- 歩道・信号
- 町内への信頼
- 地域活動
- 身近な相談相手
- 手助け
- まちへの愛着
- 意見の受入れ
- 他者への信頼
- 町内の目
- 女性活躍
- 若者活躍
- 自己効力感
- 身体的健康
- 精神的健康
- 文化・芸術・芸能
- 将来への環境・文化
- 学びの機会
- やりたい仕事
- 適切な収入
- 挑戦・成長

※「ある程度あてはまる」と「非常にあてはまる」と回答した回答者数

「生活環境」「地域の人間関係」「自分らしい生き方」の主観評価指標の満足度※相対比較（家族構成別）

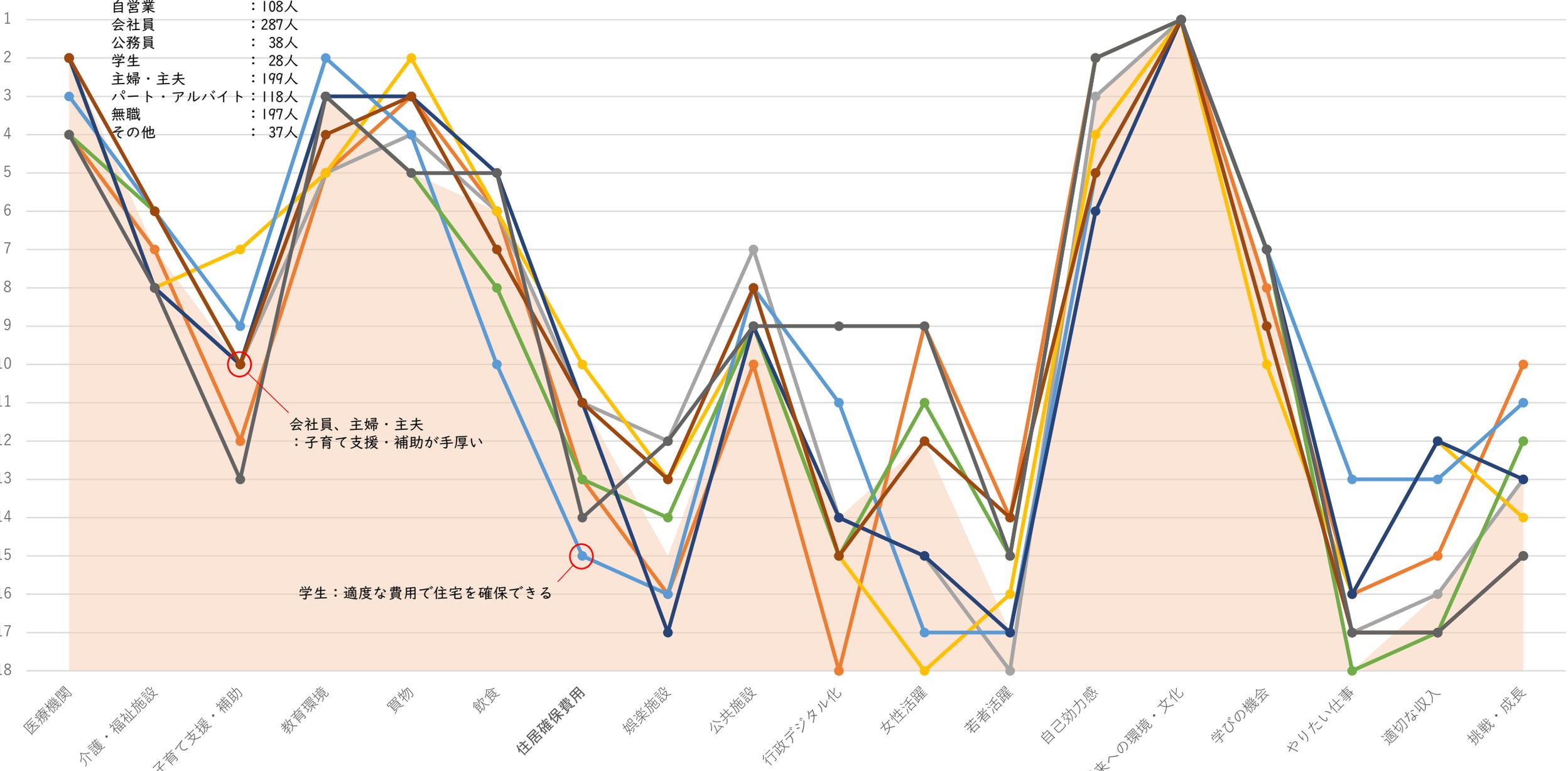
配偶者・パートナー：618人 同居人はいない：118人
 自分自身の親：135人 配偶者・パートナーの親：28人
 自分自身又は配偶者・パートナーの子ども：398人
 自分自身又は配偶者・パートナーの孫：19人
 自分自身を除き65歳以上の方：75人
 自分自身を除き75歳以上の方：124人



※「ある程度あてはまる」と「非常にあてはまる」と回答した回答者数

「生活環境」「地域の人間関係」「自分らしい生き方」の主観評価指標の満足度※相対比較（職業別）

自営業 : 108人
 会社員 : 287人
 公務員 : 38人
 学生 : 28人
 主婦・主夫 : 199人
 パート・アルバイト : 118人
 無職 : 197人
 その他 : 37人



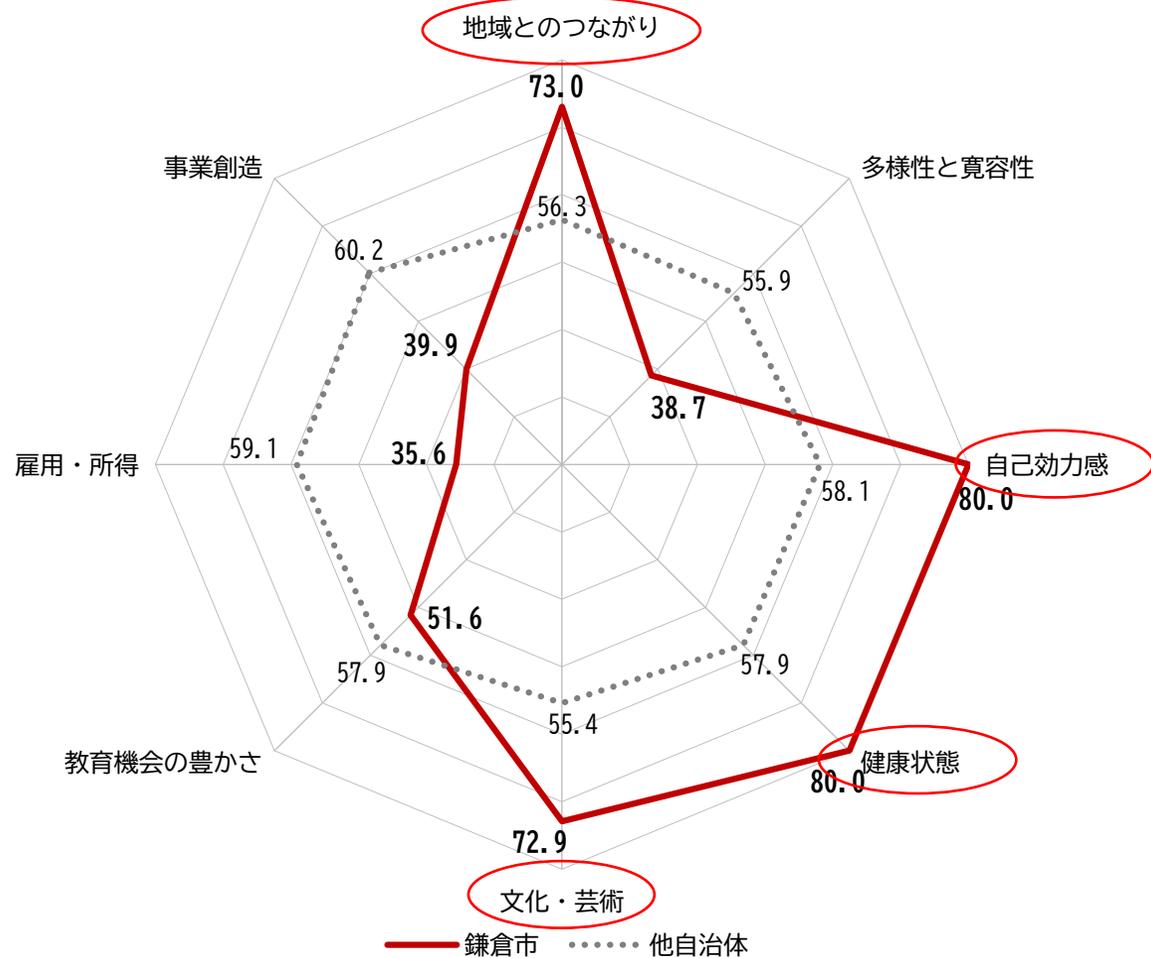
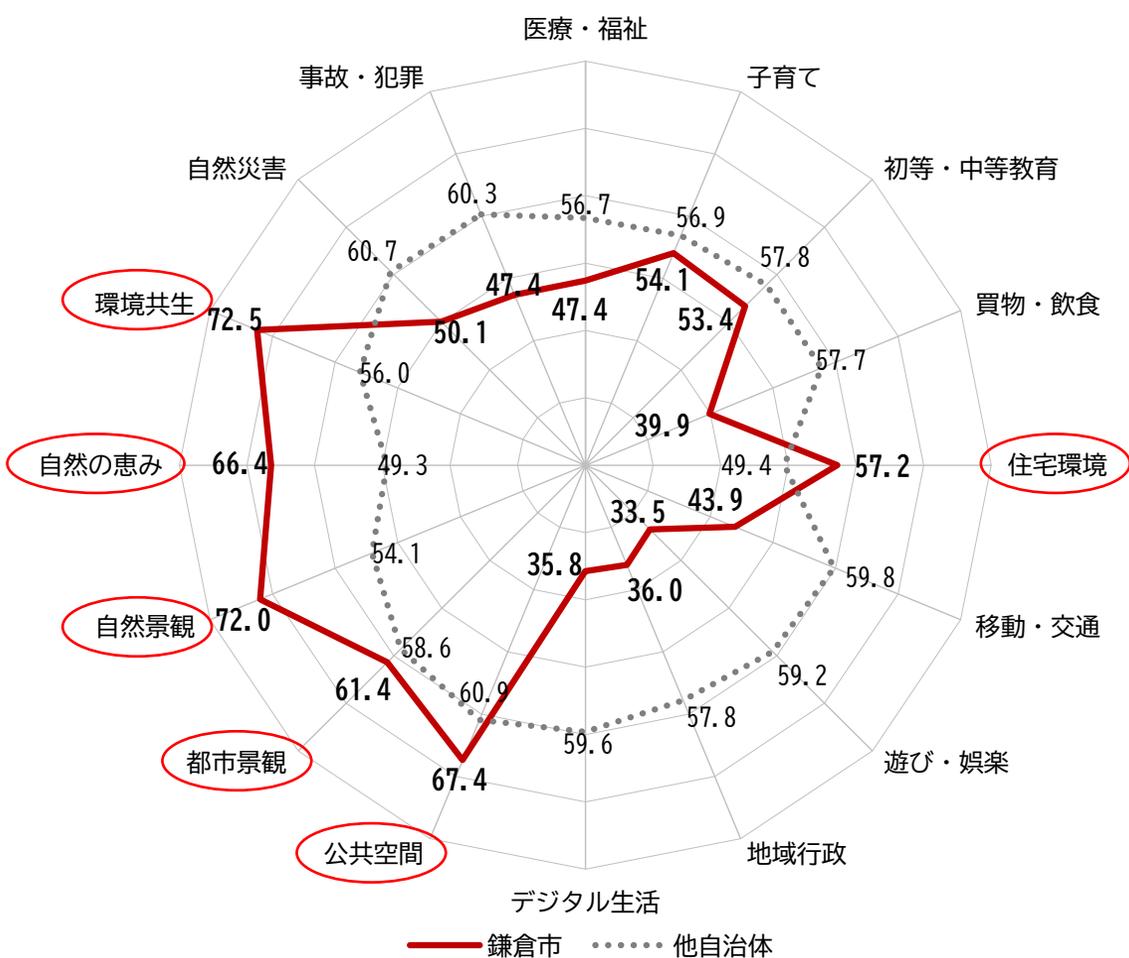
会社員、主婦・主夫
：子育て支援・補助が手厚い

学生：適度な費用で住宅を確保できる

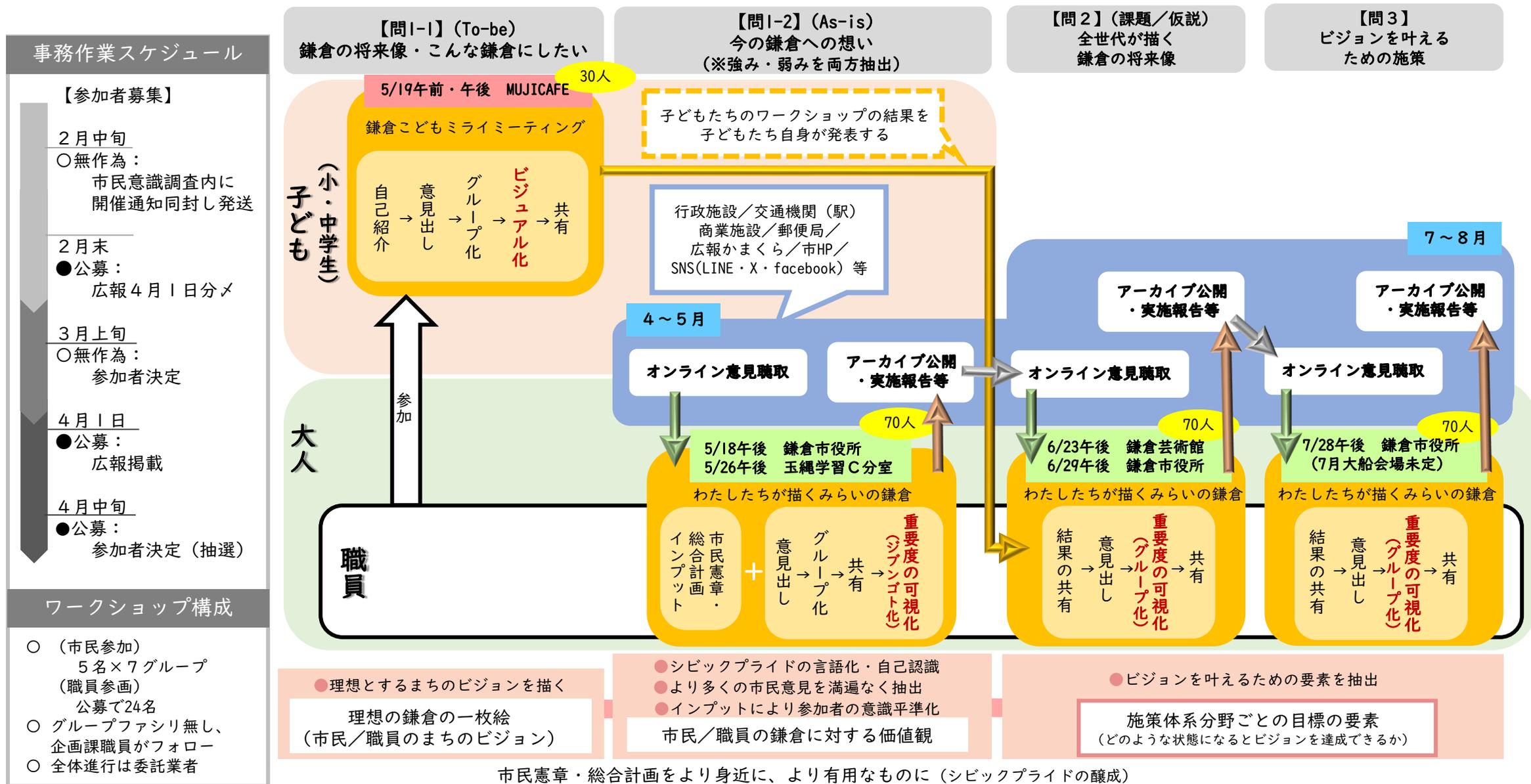
※「ある程度あてはまる」と「非常にあてはまる」と回答した回答者数



4. 新たな総合計画策定に向けた市民意識調査結果（他自治体比較）



5. 新たな総合計画策定に向けた市民参画・職員参画（令和6年（2024年）実施）



市民憲章・総合計画をより身近に、より有用なものに（シビックプライドの醸成）
新たな総合計画における施策目標の検討材料として活用